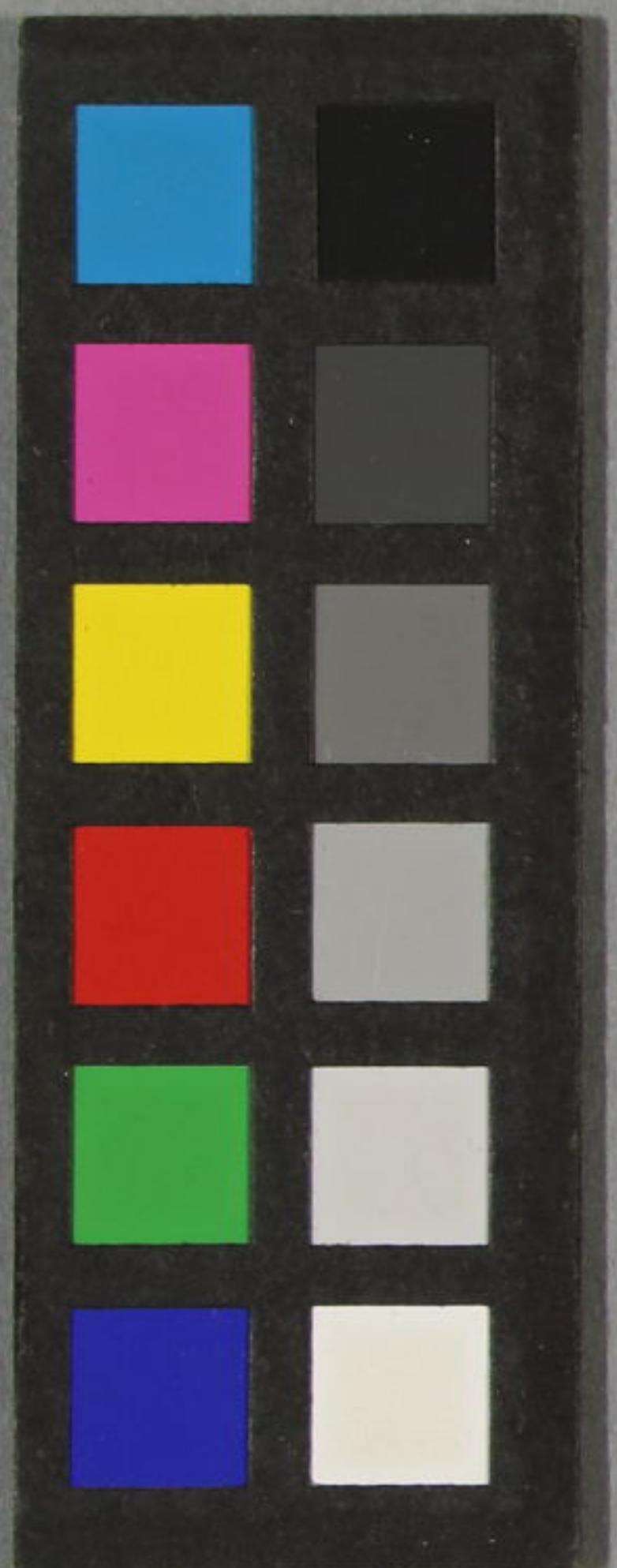


漢和辨冠子

首



鏤櫻飾楮

漢和勅心抄

普及華夷

解冠子序

自漢之石梁會セシ羣

臣ヲ而聯句之詩始ニル

也吾カ邦之有ル狂聯

句是俳家之一風

流也近真珠菴如
泉師尤長於此稍
辨一體製自時厥後
往々倣而爲之也
今游余門之諸子

或有未諳句法字
法者爲之作爲此
書且例載拙章而
附見焉諸子由其
說雜出其字卷脫

騰一抄、之、不_{ルニ}易_{カラ}將_ニ加_テ
之_カ、校_ヲ、離_ヲ、命_メ、剖_ニ、刷_一、氏_ニ
以_テ傳_{ヘド}也。余於_レ是_ニ目_{ケテ}
之_ヲ曰_フ、獬_一、冠_一、子_ト、蓋_シ、吾_カ
朝_一、嘉_一、節_一、之_一、會_一、伶_一、人_一

奏_{スル}、踊_一、歌_ヲ、之_一、首_一、飾_一、謂_フ
之_{レヲ}、獬_一、冠_一、子_ト、其_一、象_一、異_ニ
常_ニ而可_レ謂_ツ冠_一中_一之_一
狂_{ナル}者_ト也。聯_一、句_一、之_一、例_一
潛_一、百_一、恠_一、千_一、變_一、是_レ、亦_一

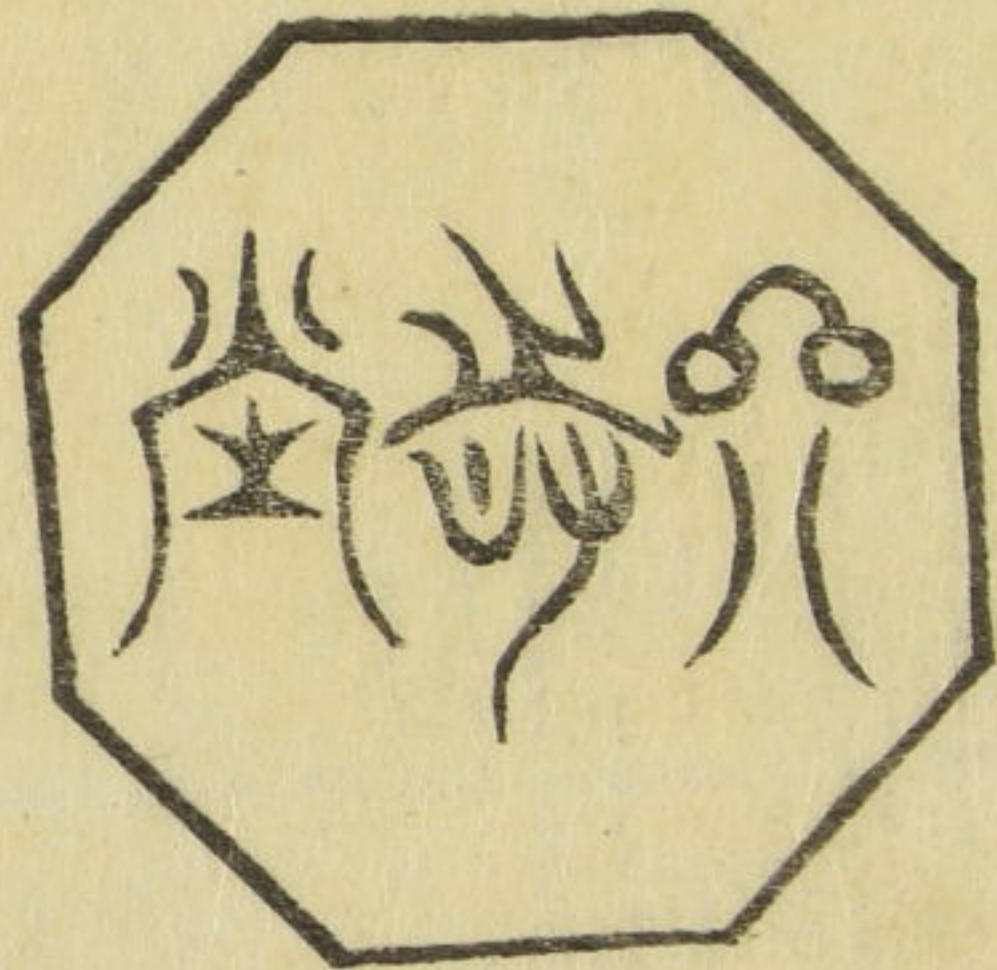
驂一旬之狂者也今
目此以彼其狂容
同也恭告諸子吟
咏贊化能移風俗
之才我與爾豈有

是邪雖然未必貴
浮文艷句者歟享
保十五龍舍庚戌
仲春之月七飛真
洛陽東阜四時堂

肖菊翁

其諺

叙



元例

一此書紙初心乃人披見して却多
 和漢漢和のはいむらうきまらぬ
 杉といふをまらうらぬ數箇條と載と
 ぬいづも所詮を得る事四五箇
 條に不過其餘ハ作意のふら
 料簡かり

一 初心の人第一對句ツイクより勞ラウとあとの
 かりコユ取モツり専ソクら其シテ品シナを迷メぶ就ツク中ナカニ
 を得チキり事シの直指イク異ヒ訓ユ比シヤウ喻タイ正體カツ
 異體イタイの分別フンベツ也これ詩賦シフの反カツ曾
 多サ沙サ法タかきをも俳諧ハイカイ聯句レング
 形カクのしく肝カン要ヨウかり事
 一 正字オモテジ僻字ウラジの取捨シユシヤハ神シヨの人のり

一 字ジなるべし併ニカシ俳漢ハイカンの句ク作サクむ
 不ゴト毎ゴトし此コト用捨ヨウシヤを覚悟カクゴと終シマむ
 自然シゼンの佳句カククと得ウるみ近チカく人物スベと
 僻字ウラジ類ルイの詩賦シフより熟字ジュクジなるべし
 不用サルかり
 一 他タ季キ對ツイ本ホン異イ對ツイ合掌ガツシマツ對ツイの事
 右ミと俳書ハイシヨれ上句ウヘ強シヤく破ハらるる

わ〜と只タビ一ガイ槩スを不ヘカラ可トル取ルるを得ルかり

一ソウ惣ブじル多ク十ニ門ブン分ル類ル假カ對ツの

法ホフあラとシちヲ終ツ切コウ達タクのノ人ニ知チをヲ由ユ

来キ也ニ今イ今ニ初シヨ心シンれル人ノ一ニ市シメとト特トクを

却カヘツ々ク作サク意イ乃ニ迷ニヨふルさキ也ニ此コノ

書シヨりシ漏モラス之コト執シラふル人ノ席セキとトかカと

祿ニク又コウ切タク達タクれル人ノにトシてテ学ニナぶベき也

一イ韻クニ外クニ并ニ叶ケラ韻イン乃ニ字ジ類ル私ワタシ乃ニ考カウ

人ノはハあラとト古コ人ニ採サイ用ヨウをヲ依ヨるル

誌シ之ノ悉シツくク用ヨウわカべキきタリ

漢和辨冠子目錄

第一 漢和名目之事

第二 和漢漢和式目之事

第三 同百韻之法之事

第四 同句續之法之事

第五 同對句之數之事 ついくのうす

第六 同懷紙書樣之事 くまひしりきさま

第七 同歌仙之法之事 うたせんのほり

第八 漢之句法之事 まんのくはふ

第九 平起仄起之事 へいきそくき

第十 第倡句心得之事 だいちゆうくこころえ

十一 入韻之法并仄韻之事 いりんのほり そくいん

十二 和漢入韻之事 わんぼんいりん

十三 對句心得之事 ついくこころえ

十四 正體異體對之事 たのまゝ ちがひのまゝ

漢和

六

并 同體違體之事

十五 直指異訓比喻之事

并 附字之事

十六 隔句對之事

十七 朱引對之事

十八 他季對之事

十九 本異兩朝互對之事

二十 變體對之事

二十一 合掌對之事

二十二 十二門分別之事

漢和

二十三

同文字去嫌之事

二十四

正字僻字之事

二十五

假名書之事

二十六

底反之事

二十七

連綿字之事

二十八

二箇物之事

二十九

三箇物之事

三十

四箇物之事

三十一

躍字之事

三十二

邊字之事

漢和

十一

漢和

十一

三十三 輕字之事

三十四 押韻之字犯用之事

三十五 六言句法之事

三十六 漢句訓點之事

三十七 古來假名書類

三十八 光彩通用字類

三十九 數量通用字類

四十 韻外字類

并叶韻字類

四十一 狂聯式目

附録ふろく

雜體ざらてい第倡句だいちやうく篇

并漢和聯句わんわしんく各篇かくへん

○漢和初心抄

四時堂其諉編録

第一 漢和名目之事

世人皆卷頭ミナクニシテ漢句カニクとタイニヤウク第倡句だいちやうくをシヨク和乃句わのく

にジユイシ入韻ハクをホクするヲキ紙漢和シヨクと稱シヨクし又卷クニ

頭トウに俳諧ハクの發句ホクとヲキ和漢ワカンといふ通例ツウレイなり然シカシども

のヘ韻ジユイシをホクたシヨクるヲキ紙漢和シヨクといふ通例ツウレイなり然シカシども

漢和

いふことごとく和漢と稱と是故實也今も
け者^{ム子}公守りては稱と稱とんよの両方とも
和漢乃俳諧と稱とむ其故に既より四條
大納言公任卿の朗詠集より奉起りて
連歌の和漢も學びゆる其朗詠集のみ
詩賦と稱と書と倭歌と次と書^{カキソ}添^ソへ
ふも和漢朗詠集と題号とも唱あらしむ

竹^{シヨウ}知^チ也^コ又後の成恩寺園白兼良公の
わと^{カウ}い^{トク}り^コ享^ン德^ン今案の奥に和漢の式と
書^ク加^カへ^ラ終^シり^ト則^シ和^ワ漢^{カン}篇^{ヘン}と註^シし^トる^{コト}
より此年頃より連歌あり和漢漢和など
專^{モツ}ら^シ賞^{ヤウ}せ^リ終^シり^トあ^リて^スり^ト是^レ又^モ扱^トと^ス也
尤^ク懷^ク紙^シの端^ハ作^スる^ハ俳^ハ諧^ツ之^ハ漢^ハ和^ハ俳^ハ諧^ツ之^ハ
和漢と書らるるは漢和乃懷帝を

漢和

三

其^ツ係^ニは^レ稱^トと^ル公^ノ誤^リを^シ及^ビ子^ノと^ルは^レ只^ニ尋^ハ常^ニ以^テ稱^トと^ル何^レ乃^レ公^ノ得^ル可^キなり

第二 和漢漢和式目之事

兼^カ良^ヨ公^シ和^ワ漢^カ篇^ヘ云^ク大^カ概^イは^レ可^キ用^ニ連^レ款^ノ式^ト目^ト事^ナ

一^ケ景^ケ物^イ草^ソ木^ク等^ニ負^ヘ數^ニ和^ハ漢^ニ可^キ通^ニ用^ニ事^ナ

但^タ雨^タ鼠^シ首^ノ古^ク曉^シ老^シ等^ノ之^ノ類^ト和^ハ漢^ニ各^ノ可^キ

用^レ之^キを^シ如^ク新^クあ^らわ^せば^レ格^ノめ^とら^れり

和^ハ漢^ニ々^々和^トと^ルの^ノ俳^ノ諧^ノふ^も尋^ハ常^ノの^ノ和^ハ格^ノは^レく^のつ^まな^り尤^モ連^レ款^ノふ^も和^ハ漢^ニ々^々和^ハの^ノ懐^ノ帛^ノの^ノ去^レ嫌^ハい^もも^ゆら^り百^ノ韻^一座^ノ乃^レ京^ノ物^ノの^ノ負^ヘ數^ヲを^シ料^ノ簡^ヲを^シ加^ヘら^れり^其首^ハは^レ上^ニより^下なり^乃和^ハ漢^ニ篇^ノは^レ詳^シ也^今今^ノ定^ムま^り畧^セり^畢意^ハ今^レ俳^ノ諧^ノは^レ亦^モ用^ルの^ノ去^レ嫌^ハい^もも^ゆら^り乃^レ此^ノ和^ハ漢^ニの^ノ格^ノ式^トを^シて^レ其^ノ上^ニより

漢和

一考イツトウ審ユルする式目也世人れ知するあるれば
不及記歟尤草本京物の自ら教極くるる
物の和漢より分け用又表表ウラオモテ以下乃
ものいづきも漢和テガチお務デガチなり程多函の公
得ウケあり

第三

漢和并和漢百韻のほろ事

初折より名残折まで面裏乃句教俳諧の

常は也○面八句漢和の付八句目和也和漢乃
附漢也尤對ツイ一懸レニ五句目六句目七句ト第三
才四の對レい不好レセシ本花の事也○執事句漢和の
附和也和漢乃附漢也○花漢和の付初折和
の花也三漢三和名残漢と折と添ヘテて不用
尤和漢乃附ホシ翻ホシして不用但タシ第三倡句或ハ發ホツ
句クたり花の句の付ハ漢和々漢とめハ又翻ホシして

漢和

日

百韻は一處のみあるに若干韻と隔今一處も不有
よ又其初句と韻の句和言より部で章句對句
章句對句と五句は續ていふ所子六句は漢句と
ハ續る也至漢對句と書知れる所を得べし
和乃句と六句ハ續る也

第五 同對句之教

或俳諧の書ハ漢の對句ハ人後ハ一處あり其

外ハ亦も不考と世説を神公ハ人を得
て漢の章句とあるハ韻の句ハ漢とて行る也
句と云く付れ對乃意曾ては是彼書れ説を
心得る也漢の句ハ上ハ漢句と行るハ百とび
千夜も對乃意ハ力べき也其書の從ハ人後
ハ對一懸わづらうの餘ハ若對句と云付ハ和の句
とて付よと云ぬ今一言書殘しとるもの也

則墨と次で下れ二字と書也又上二字と書と墨
 を継て下の三字は書もゆるが少ぬゆり年也
 其外常れ俳諧の執事の位を下用初を人の
 懐紙抄かく漢句とて和句より「二字さびてある
 大さの非也上下ひくく半ぶと也當代和の懐紙を
 短句と二字引びて流る事是俳諧師の事練
 たりとて連歌家の事多しをわん人の嗜りごとく

第七 同歌仙の法

扱て歌仙の法は其不れ系物負教ハ五十韻の
 句得とてあり定は也和漢と和同新也され又
 等句入韻より句得對句多れ句得皆百韻不
 遠ふところれ但歌仙の漢句は後ハ以上の様く
 事不守有折の極り表うつりかどくかりては
 六句も流る事不若余ハ百韻は准つてある也

第八 漢の句はく事

○二四不同 フドウ 白ハ平 黒ハ仄 ● 平 ○ 平 ● 仄 ● 仄 毎句二字

同と四字目と同聲ドウシヤウの字は不用故に二四不同と

い此圈ホシ乃格カクを依るを平起ヘラキの句といふ上の二字ハ

平仄のみこれ但一句ふより平字は必ず

不許句有る終ハ四字一平を避サクふは也

○同仄起ソクオウリの句 ● 仄 ● 仄 ● 仄 ○ 平 ○ 平 此格ハ仄起

いふ勢オコリで起シとハ二字同の事也下シモに平ヘラと起キるハ
 韻イニハ句也此の句乃對句也又一格の句は少遠ツイクハ
 句ハあはれ也

○二四不同 ● 仄 ○ 平 ○ 平 ● 仄 これ中品の句也

○同 ヘラキ 平起の句 ● 平 ● 仄 ● 仄 ○ 平 これ歌也對句也

かくれおとく毎句依る七二四同聲ドウシヤウをハ堅く避サクる也

○下三連 ○ 平 ○ 平 ● 仄 ● 仄 ● 仄 下三連之字同聲

いそ嬌ふ又 仄 仄 平 平 平 ころしは同ふ也此

格と下三連といふ是と嬌ふと避三連と云ひたり

○五字一平 仄 仄 仄 平 仄 け格と四仄一平

ともいひて嬌ふ也此句上の二字と平に取換ふ

何のよるべき也但又五字一平よりとも古語の

熟字或の所名物名などに無執何より不用也

宗匠乃けりいひる也古詩より五字一平れ句

おのれゆる也うれい長篇をいひて漢和歌句をい

獨句の物なりいひて嬌ふべき事也此のい記句也 俗云上

○五字一仄 平 平 平 仄 平 ころしと四平一仄と

いふ也此格い強て嬌ふるふわ以下品の句也是れ上

乃一字仄に取替れいよりべき也是又古執熟字

候字かゝる其候より用也尤毎夜い不可有候

同作をいひ作者の意念なるべし

漢

ト

漢和

七

第十

第倡句を得の本

章句も唱句
をも書かり

第倡句とは卷頭の発句なる也文字ハ漢字に
 て綴りしつども句意ハ注分俳諧の体とあり
 小なとぶきまら勿偏なり世人ハ製作の妙を
 俳漢狂漢の差別ゆへも畢竟同形也俳と
 狂との境ハ俳達乃人のちりけりつりや第倡句と
 造るんよは或ハ古き詩文經書などの熟字をど

を極く造る出づる勿偏也又出書不詳と云
 とも世よりいふまじ同訓書るしるる文字言語
 常に用ひまじ也此種俳道乃大乗也ちりけりとも
 同るしる異字僻字正字僻字の
るが身はけりなどハ公案の類も
 作んまじ念也尤異字僻字難字成とも
 其字形或ハ字心など直よ一句の趣向の眼字
 ともするハ各別也益益乃採用甚嗜りし

漢和

七

除く用り也。あつて俳諧にあらそ入韻の字をそ
 まじりしは、此字のいかに也。只入韻の字は、
 其韻彼韻とつらつら同ゆるやうにせらるるが如し也。
 多し人の風をさへば、東池をさへば、支脂とさへば
 刪山と同ゆるやうにあり也。其の態藝、虚押
 多しある處で、慥かなる正字にてあり、
 持 支脂 牽 先仙 行 庚耕清 看 寒桓 などの如也

けり、割るる 齋 支脂 桐 一東 徂 虞 模 觀 寒桓
 か、中、れ、字、入、韻、は、不、用、也、他、准、之、如、也、
 假名書異訓などの文字、不用、
 期月 客之風 爺埋山 或ハ各離 雁 汗書 牛
 け、類、多、し、い、つ、も、一、切、不、用、又、異、訓、と、ハ、土、囊、風
 振條 秋風 虹腰橋 鈎接 梯 歌童 鶯 晨風 鷹
 々々々乃、類、不、可、稱、計、一、切、不、用、但、古、來、より

一字五字目也ハウジみ平字とすオモテシる句ジヤキヨニラ上ジヤキヨニラ去ジヤキヨニラ入ジヤキヨニラ

仄字ハツジ二聲セれウチ心タカ方オモテシ心オモテシ字ジヤキヨニラ入ジヤキヨニラ韻と

とイニ七ウチ也カシでシヤクク百韻の中上の漢ミチコトクの章句ミチコトク也

字ジメ目ハウジみ平字とすウチ一ツイク對句イニ并韻下のの句ハ漢

和ソクとユイもフム其入韻ソクにユイ居フムるフム仄韻ソクハユイ字ジメ数フムと踏フムひフムき

やドク々シヤク詩ドクの仄韻ドクハドク二ドク四ドク同聲ドクホドクの制ドクはドクかドクすドクい

れツモ漢和ツモハツモたツモめツモその常ツモれツモ句ツモ法ツモと字ツモ々ツモきツモなり

尤ソク仄韻ソク乃漢和ソク強ソクてソク不ソク好ソク也

第十三 和漢入韻之書

古カ往和カ乃カ系カ句カハ漢カの句カとカ韻カとカ核カひカるカ也カ是

と發句カ中カにカ慥カかカれカ平字カあカるカハ其韻カと除カ

くカべカるカ人カは

何ナニ公コウ方ホウくクてテ夕セキ月ゲツれレ夜ヤ乃ノ雨ウ 此コノ終シユウ句クなりナリ

何ナニ心シン侵イン 此コノ二韻ニインと除トヂくクべベるルハ無ム乃ノ字ジ

第十四 正體異體對并同體違體之事

物^{モノ}で^デ俳漢^{ハイカン}の^ノ對^{ツイ}の^ノ字^ジ義^ギの^ノう^ウろ^ロ不^フ調^{ジョウ}と^トの^ノ不^フ對^{ツイ}の^ノ也^ヤ第一^{ダイイチ}に^ニ字^ジと^トの^ノ平仄^{ヘイセツ}の^ノ款^{クワン}虚實^{キョジツ}輕重^{キョウジュウ}の^ノ事^{コト}第二^{ダイニ}も^モ義^ギと^トの^ノ正體^{テイテイ}異體^{イツテイ}直指^{ジチ}異刻^{イツコク}比^ヒ喻^ヨの^ノ分別^{フベツ}也^ヤ此^{コノ}如^{コト}の^ノ事^{コト}一切^{イツケツ}の^ノ對^{ツイ}も^モめ^メ此^{コノ}次^ジ下^ゲの^ノ事^{コト}と^トい^イふ^フ也^ヤ

○正體 此れ萬物^{マンブツ}を^ヲ正直^{テイジツ}とい^イふ^フ句^ク也^ヤ

ぬく^{ヌク}ハ 墨^{スミ}吉^{キチ}松^{マツ}風^{カゼ}扇^{アヒ} 此れ真^{マコト}の^ノ松^{マツ}也^ヤ

風^{カゼ}かり^{カリ}心^{ココロ}體^{テイ}也^ヤ下^ゲれ^レ一^{イチ}字^ジの^ノ會^{カイ}意^イの^ノ格^{カク}也^ヤ

對^{ツイ}句^ク 網^ア干^{ボシ}梅^{ウメ}雨^{アメ} 是^{コト}又^{マタ}真^{マコト}の^ノ五^{イチ}月^{ゲツ}

ぬ^ヌ也^ヤ下^ゲの^ノ一^{イチ}字^ジの^ノ會^{カイ}意^イ也^ヤ此^{コノ}格^{カク}古^コ詩^シの^ノ格^{カク}也^ヤ

○異體 鶴^{チドリ}繫^{カケ}松^{マツ}風^{カゼ}桶^カ 此^{コノ}格^{カク}古^コ詩^シの^ノ格^{カク}也^ヤ

人^{ヒト}倫^{リン}と^ト是^{コト}律^{リツ}也^ヤ

對^{ツイ}句^ク 馮^フ奴^ヌ花^{ハナ}月^{ツキ}鐸^{ダク} 是^{コト}人^{ヒト}名^ナ也^ヤ

漢和

十一

○又 響^{カス}松^ニ風^ヲ 懺^{セン}法^{ホフ} 此^{コノ}松^ノ風^ハ洛^ノ北^ニ

相^{シヨ}國^{モツ}寺^ノの^ハ什^{ハチ}物^ノ乃^チ錢^ノの^モ名^モ也^{ナリ}器^キ財^{ザイ}也^{ナリ}

對^{ツイ}句^ク 囉^ス菊^ニ水^ヲ 行^ヲ粧^ラ 足^ホ銚^コの^モ名^モ也^{ナリ}

こ^ノの^ノ句^ハは^ハ十二^ニ門^ノ九^ノ字^ノ類^ノ各^ノ有^ル之^レこ^ノの^ノ格^ヲ

を^シて^テ他^ノの^ノ門^ノ乃^チ字^ヲ正^シ異^ニ別^ニと^シて^テ對^シを^シ作^ル也^{ナリ}

○同^{ドウ}體^{タイ}違^イ體^{タイ}の^ノ辯^{ベン} 此^{コノ}後^ノ每^ノ句^ノに^テある^ノ用^ヲ也^{ナリ}

余^ノの^ノま^ニて^テ神^ノ公^ノの^ノ河^ノ如^ク泉^ノ師^ノと^シて^テ連^ル之^レ冬^ノの^ノ頃^ノに^テ也^{ナリ}

と^シて^テ心^ノの^ノり^にて^テ余^ノの^ノこ^ノの^ノ類^ノ十二^ニ三^ニと^シて^テ體^ノ變^ヲ

體^ノの^ノま^ニて^テ心^ノの^ノり^にて^テ余^ノの^ノこ^ノの^ノ類^ノ十二^ニ三^ニと^シて^テ體^ノ變^ヲ

か^レど^シて^テ心^ノの^ノり^にて^テ余^ノの^ノこ^ノの^ノ類^ノ十二^ニ三^ニと^シて^テ體^ノ變^ヲ

龜^{ヒキ}拳^ニ松^ノ笠^ノ發^{ハシ} 中^ノの^ノ打^ツ誦^ブ一^ト多^ク

爐^{イロ}の^ノ火^ヲして^テ書^キ給^フる^ノ余^ノの^ノ志^ヲと^シて^テ業^ヲと^シて

獅^シ髮^ノ 菊^ノ鐔^ノ 強^ク と^シて^テ對^シ句^ヲ公^ノ作^ル

字^ノ對^シと^シて^テ合^フる^ノと^シて^テ自^ラ讀^ムの^ノ句^ヲと^シて^テ云^フ出^ルを^シる^ノ也^{ナリ}

漢和

十一

師不諾スバクセとて云なむやね多ハゼンタイニヤウニヨク全生植ツバかり
 たるこの菊キクツハ鐔ハ器財キガイとて體達タイタカつる鐔ツバの字
 輪リンと換ふべしトテ連ノユルを枯カルとてムチき者ムチ又
 ともサテ菊輪キクリン枯カルと生植ニヤウニヨクとてケツキヤウ冬フユれあ
 いらむと相領ヨオモキり此極トウクイとて同體イタイ違體ニヤの差
 別ベツとてカカ知得チトクべし今イマ初ハジメ乃作者此境カカといと
 王オウたき人ヒト多タカシ

第十五

直指異訓比喻并附字之幸

虎コウ圖師トの目字メハ異訓イケンあるハ義ギと亦オモ從スガフ之義ギと
 牽ヒカ並トイて類ワシと趨ツクるハ吾制ワカセせざる所トコロ也セツ此コノ説セツを
 くらむと知得チトクべし

○直指

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 風 | 乾坤 | 代 | 時候 | 童 | 人倫 | 蟲 | 氣形 |
| 足 | 支體 | 芝 | 生植 | 鹽 | 食類 | 衣 | 服類 |
| 繩 | 器財 | 青 | 光彩 | 百 | 數量 | | |

かやひ一切の字正直よはくも事也くはくは門
ルイハクワクカ 類平仄叶ハハ射とる也

○異訓以同字註之 晨風タカカ 氣 月代サカヤキ 支 丙童ヒオケ 器

銀蟲トモシビ 光 衛足アフヒ 生 肉芝カヘ 氣 木鹽ヌルデ 生

垣衣ウラハ 同 玉繩ホシ 乾 青箭アヲシ 氣 百脚ムカゴ 氣

かやひれ類異名射もつりこはくはたも異訓
チキク 直訓ハハ違ハてモ門類平仄と個々字義の類

り牽ヒカく本とよく合アとヒス二字異訓あり射の
 取トリ中ナカも有アリ也

吹カヒ 乾キ 向キ 居ド 三ムツ 時キ 出イ 人ヒト 封フ 氣キ 而ニ 支シ
 繩イト 態カタ 紅ベニ 生ナマ 軒ササ 食ケ 織オリ 服ヒラキ 規ヒシ 器モノ 散チリ 數カズ
 風カゼ 虚ソラ

さなれ射の取中も有也又け類
 字ジとつりもの有り

雪露 曉皇鳥 身草 醜
 服繩 玄白 一五九

この類の類のまゝなる同類とて辨とぐ

○比喩 風袋 器 足代 同 童松 生 松蟲 器
 蝶足 同 芝居 靴 鹽目 支 衣被 生 芋名

麥繩 食 青侍人 百枝 名 百々 所名

これ又異号の物もゆかり類も辨の取中同新

かゝるは二品と換りても同字のゆかり者と物
 者との物ゆかり終へ辨式も同字別吟同
 字別公のほよふて取あつる一十二門の字
 類の去嫌心辨式也 其とい定以類ゆかり
 三品とて料簡を加へて又異訓比喩も三品
 四字傍らもゆる盤まぶら上異号
 第十六 隔句對之末 脚句もよ也

され五言なりは十字一句とあはれ一句はとよに
 註と二四不同避三連なるのほと字と對句も
 十字一句よりゆるて對句も也並對句は句とつてそ
 對句もかる也故に滿句といふは今日句安ら
 後一ゆる又扇對ともいふなり

○隔句 一家 仁福引

寡婦 戴雷槌 章句也

○同

千里 能 毬 打

幼君 召馬 標 對句也

されこの一強十字にして句安らなり上は五言に云
 うけて下は句と謂はれ也ゆる上は體用の
 者より上の體といふと下は用を云ふ上の用と
 いふと下の體を云ふゆる又體用上下入るる
 句もゆる今更引の一強の上は倅下は用なり

隔句對ハ百韻ニ一独ある也若ニ折まぐらん一
然も若く若ハ名張の折かぐらん下り必免百
韻乃中一韻もさても不若邂逅の事ぬも
然句百句たぐらんハ必ある事也

第七 朱引對之幸

朱引の教五ヶ條いづれも同教とハ對メ用
所名 此れ初と云名不函の名也真ハ独句

漢和カズ不名以て之われど文字の門類か
俳漢ハ句ハ門類と合々對と也多々ハ人
ハ句ハ云。紫野丹波近。白川黒谷隣
中々の文字遣と云得べし或ハ衣笠ノ紙幡
眞面。的形 皆無。多置カズト云
字對を取べし若ハ韻字ハ何れ所名ノ字
取少くもハ恃カズ不名ノ熟字カズ門類

射とて也ツイ下サウで書シヨルイ数キハ器キ財ガイト通ツウ用ヨウとれハ軍グン器キ
楽ガク器キ茶チ蒸ヤかキの古メた銘メイ又ハ香カウの銘メイをタニク適タニクハ
通ツウ下ダで射ツイとて

○年号ネンガウ 三ミつツの年ネン異イ支シ朝チウの年号ネンガウ通ツウ用ヨウとて
以上オモテ朱シ引イン也ナラ面オモテ八ハチ句コ一イチは嬌キウ子シ也ナラむ才サイ偶ウ句コは各カク
射シ也ナラ下ダで朱シ引イン数スウニ懸ケンの四シ句コハ不フ續ツク也ナラ物モノとて
て四シ句コ去キちチなり

○朱引款ウツ 右ウチ所シヨた宿サク中シナハ人ヒト名ナうウらラハ中ナカ
物モノの年ネンた年号ネンガウ 此コノ名ナれレぎギくク上カミれレらラハ一イチ也ナラ
下シモれレらラハ一イチ也ナラ下シモれレらラハ一イチ也ナラ

第十八 他季射の事

春ハルと射ツイと秋アキと射ツイと夏ナツと射ツイと冬フユと射ツイと
季キの異イハ一イチ也ナラ季キの異イハ一イチ也ナラ季キの異イハ一イチ也ナラ季キの異イハ一イチ也ナラ
用ヨウ也ナラ古コ人ヒトの作サク例レイ多タク一イチ二ニをフダ挙アゲ

漢和

十

○春窓ルニサウ曉ルニシ句小 端陽キツヒ以レ競渡カク 九日キニ客登カ高タカ

○内裏メイリ三千ミチ泉イハ 螢ヒテ亂シ風キル鑽ス燧イフ 蝶テ醒メ露ツ洗ス粧シ

又詩賦ニフ一ニ格カシ也也

○白樂天長恨 春風チウフウ桃李チ花ハ開キ日ニチ

秋露シュロ梧コ桐トウ葉エフ落ル時トキ 此コノ詩シ賦ヒ不ズ及ズ記キ

心ココロ和ニ乃ハ連レ袂タテマ徘徊ウロウロ不ズ可ク春ハル好コト多ク三ミ句ク也也

他タの季キへ移ウツふル9ニ向ムゆるル和ニ又マタ漢カン句ク對タイ

和ニ乃ハ連レ袂タテマ徘徊ウロウロ不ズ可ク春ハル好コト多ク三ミ句ク也也

第九 本ホニ異イ兩リヤウ相サウ互ゴ對タイ之ノ事コト

或アル云レバ山サン谷コクよ道トウ風フウよカ對タイされル唐カラ人ヒトと日ニチ本ホン

人ヒトあらわらぬレ之ノ對タイよク今イマ名ナ所トコロ年トシ号ナヅケも同ドウ

前マエ也ナリ世セ況キョウ難ナンをシ得エ對タイのコト云フらレはシ體テイ用ヨウ

多タくシあらわらぬレ也ナリ和ニ乃ハ連レ袂タテマ徘徊ウロウロ不ズ可ク春ハル好コト多ク三ミ句ク也也

いハなク對タイとス也ナリ古コ人ヒトのコト例レイ多タク今イマ又マタ一ヒト

漢和

十

二を挙

○内表三千句小

稱楚枕流鴨

屬姫圖國鈴

け起句ハ晋の孫楚といつる者漱石枕流といつる

故来也對句乃姫とい我報ハ姫氏の國名はる

こハ天照左神れ清事とすけり圖國ハ神武

紀ハ云國狀と廻望多しで猶如蜻蛉之醫帖

也といつる和初の故来也又

○同縣句小

真隱莫如橘靈神只愛梅け

起句ハ巴園の人乃橘れ中ハさくらの段象戲と

をでる故来也對の靈神ハ聖王廟乃清事也

○策彦句小

妾如昭陽燕工圖日本變

け昭陽ハ漢れ殷名也こハ支朝對也尤和國の

句ハ和國異國の事ハハ異國を對句稱也

さるは句小とて互ハ通用とて一交而異初と

漢口

○

和

和

和^{コチ}知と對^{ツク}はんとし不可^レ謂^レ只句の^レはと^レきた^レ任^レは

第^レ廿^レ 變體の對句之^レ事

愛^{ヘン}倅^{テイ}とは異^{コト}中^チより^レ文字^{モシ}或^レは同字^{トウジ}を^レさ^レる^レべ

同^{トウ}畫^{クワ}と^レ以^{ツク}造^クる^レ句^クは^レ也^レと^レい^レ不^レ好^ク事^カは^レも

其^シ度^{タク}乃^{ケツ}興^{キョウ}又^キ懷^{クワイ}紙^シの^レ模^モ樣^{ヤウ}を^レい^レふ^レは^レ換^カ

百^{ヒャク}種^{シュウ}よ^レ二^ニ所^{シヨ}を^レく^レり^レい^レか^レる^レ其^シ品^{ヒン}款^{クワン}次^ジみ^レよ^レつ^レて

雜^シ入^ニ魚^イ一^ニ

○五言同字對^{ツク}

應^{マカセテ}レ應^{カカレニ} 應^{マカセ}レ應^{カカレ}

相^{オモフテ}レ相^{カスネテ} 相^{オモフ}レ相^{カスネ}

○四字同對

重^{カサマ}レ凡^{カハラ} 重^{カサマテ}レ重^{カサマ}

間^{ハタテテ}レ障^{シヤウジ} 間^{ハタテ}レ間^{ハタテ}

○三字同對

編^{カネリ}レ風^{スカタテ} 扇^{アキ}如^{アキ} 扇^{アキ} 扇^{アキ}

蟬^{セミ} 生^{ウレヒガク} 冠^{カサ} 冠^{カサ} 冠^{カサ}

さらけ^カぬ^カ句^クの^レ兩^{リウ}音^{オン}の^レ文字^{モンジ}を^レそ^レい^レつ^レい^レと^レす

護^ゴ

廿^ニ

○同聲三字對 トウシヤウ

亂ミヤハ 亂ヨコタテ 堤ツミ 難シ 亂オホリ
盛ウツハ 盛ヒラヤウ 庭ニ 似リ 盛モルニ

○同偏對 オナヒ

嫉シウ 妬ミキハ 婚ウイ 姻ヤケ 媾イキヒ
依ホ 侏メカス 伉イモ 儷カ 傀ヒトヨク

○同冠對 オナレ

籬ニ 籠コメ 竿ハチク 箬ニ 筍タケ
節ニ 蓋オウフ 艾ニ 菖ニ 蒲ラ

此句は二字同聲を以て異訓して句法を以て

○同畫對 オナヒ

鷲ウ 鴈カ 象ケ 鴛フ 鷺ス
鯉コ 鮠サ 鮓ブ 鮓ハ 鱖ハ

○分字對 ワケレ

大カ 炊カ 成シ 鼎カ 森ホ
牛ウ 料ア 立テ 鋒ホ 犇ハ

此句は上二字と分下以合とる格也

○同格 オナレ

八ハ 幡フ 鳩ト 九ク 九ク
三ミ 笠カ 鹿カ 比ヒ 比ヒ

漢口

三下

この上の字と下の字と分岐する格也。中々の款
わきまは格多し。累々

○會意對

船 二 星 通 氣

扇 重 山 池 精

○競い對

噍 蒂 枏 山 伏

障 枝 萩 大 名

この修めは、ニテ 難字僻字也故し

この句は、シヤウク 意句より對句からなるもの也。後で不好

第廿一 合掌對之奉

鄭乾清テイケンセイ曰アルモハ或者平仄門類雖依途徹而一首

一尾俱出ヒトモニツ一意是俗謂之合掌イヨリ聯此也レモ作對

者大忌皆不可不知也ニイガ云云ニハアル俳諧漢句對

其形カウシヤウツイ合掌對といふは和句トウイ云同意附

奉也云々キンキウウラ瓜迫世勇ツイを對し鳥ツイ以ツイ爲ツイ貴

一 虫なるの同類と對するは合掌對と云はる
 作者の作るべきは僻事也是と考ふる中此乃
 俳書よ合掌對の引句は云棄贖朱加計
 増精青菴多饅と云一聯と引は此句贖小
 精乃至計は饅を對するをば合掌也云は
 云々の引句も五言中一字も勿れ
 と云んや此句平仄門類よく合せらる句なり

一 首尾一云此同案なるは合掌對の類也
 又此一聯と云はけていり昔の贖れ句は若
 計の句也對は精の句也菴多饅の句小何は
 此句の句也終てエ支カカト云はるは此
 一聯俳諧よ又同案なるは不問也知ては
 一合掌對なるは沙汰一合漢和聯句
 沙汰と云は或俳漢の月句よ銀丸盛免血

漢和

三十三

この類不違記イニアラスニより考カクらるるに作例サクレイあり
色トウライに同類と對するツイ以合掌カウシヤウとは不可言イラニカシ併ニカシ鳥
は魚イサ虫ムシの類タカヒ互ナカヒに取換トリカへ對ツイせんは上品ホシ也
作者サカシをゆぐ

第三 十二門分別之事

十二門ジニモンの分類ゴクは虎関コクシ禪師ゼンシの聚分韻略ジュブンインリョクより詳也
聚分韻略ジュブンインリョクとは俗ゾクより三重サンイン韻の事也此書名と

今イマ中ナカにシテ三重サンイン韻リョクといふもの虎関コクシ師シの付ツケれる書ショ
名ナはハ此コノ遠エン末マツの世ヨ誰タレ人ヒトに付ツケるものや詳ツミヒラカき
どかやうれ事コトも漢和カンワの志シと人ヒトの志シのそと
さき事コト也先イニ韻略リョクより平上ヘイジヤウ去入キヨニフの四聲セイとつら
るる書ショと三重サンイン韻リョクといひ義理ギリ不當ヌアタラ事コト也只イニ韻
畧リョクかゞ事コト以ツキて唱トナめばまじやぬは十二門ジニモンに付ツケ
俳諧ハイガイの漢文カンブンより得エるもの類ルイと合アを對ツイよる也

△子ホ、
その有粗註ス

○乾坤門

此門ハ風雨雪霜雲霞など

ノ類と載て皆乾と山川沙石宮室家屋

方所郡國の類と盡して坤と歴然たり

ちるはも俳漢よりわめて此の門をば天地門家

屋門と二門はを得て天地門とは別乾坤門

なり此内は天象降物算物風体の差別も

中にも都て乾なりと云ふは皆通して對し

不周只宮室家屋牆壁の類ハ家屋門と

を得ては皆連佛よりある居る也之れ

かり居るの文字居るの句をば山川江海

に對してハ不都合なり者也故に尋常の

乾坤の乾坤居るは居るとして對

とてはるはも風雨木の風体降揚山川

漢和

三十一

意ココロを通用ツツヨクする俳諧ハイヤウの對ツイはむ時候ジキョウの
時トキ修シユを對ツイする但ガイ一際イツケンのツキあはれ

○氣形門キゲタモン 此門コノカドの君臣クニシニ父子フシ夫婦フタフ兄弟ケイテイの

類ルイ姓セイ氏シ官クニ黨タタ戒ジヤ狄テキ軍グシ旅リヨの品ニチ次ツイで鳥獸テウジウ

虫チウ魚キヨの區マタクを載ノセり此門コノカド又マタ俳諧ハイヤウよとて二

門カドと名ナをナし人倫ジンリン門カドと名ナし君臣クニシニ父子フシの

品の類ヒンルイ也一ヒツの氣形門キゲタモン是コト鳥獸テウジウ虫チウ魚キヨの

類ルイ也是則コト連俳レンハイヤウよとて人倫ジンリンと混コンと

べり去サリ嫌キヤウいかなる遙ハルカく違タガつる事コト多タカく只

人倫ジンリンよの人倫ジンリン生類シヤウルイよの生類シヤウルイを對ツイするさかり

或シ鳥宿トウ池中チウ樹僧ジュソウ敲クウ月下ゲツカ門カドかゝる人

の作例サクレイのり生類シヤウルイよ人倫ジンリン對ツイ不フ善ゼンとトりか

さもかゝる詩句シキウの對ツイは件ケン乃賈カ鳩トウが句ク

かぎる人倫ジンリンよ植器シヤウシヨク財サイも對ツイするは

漢和

三十二

玄對イツイと長篇チヤウヘンをふらば甚後ハキダオホに今を俳諧乃漢
 和聯句ハ獨句ドククの作るに陸合リクカふ字タイヨウ粹用
 相似ヒトツダナとく中ナカに作る七若人倫モシヒシリン之句
 目乃雨メノアメ又イ類レ字ジふりて人倫ヒシリンの類レ類レ字ジ
 にかたときハ生類シヤウレイの字ジに對ツイとべきなり
 尤モト中ナカの對ツイハ生類シヤウレイノ無限外ホカの十一門シヨウは字
 にも人倫ヒシリン對ツイなるべき類レ字ジ取用トリモチユを事

第一トの横ト格テはけ類レ乃對ツイ人倫ヒシリンの字ジ取用
 ふも此格カクとて勿得ナラズべし一カ際イにハ不可カ談ダン
 ○支體シタイ門モン 容ヨウ口カウ類レ身シ同トウ手テ足ソク毛モウ髮ハツのノと
 及ヲ羽ウ翎レイ角カク牙ガ鱗リン甲カウのノとて皆ナラ是シ人倫
 け類レの體タイと翼タスクるれものなり此中ココノナカにも人倫ヒシリン
 類レ乃差別レ又粹用タイヨウれ品シナつらなりさやれ違チガ
 いちとよく分別フンベツわけて對ツイを用ヨウいらるべき也

類
和

三
三

漢和

三十八

○態藝門 タイゲイモン 此門ハ詩書歌舞漢獵博塞

トウ 等の類皆人ハ採用サイヨウする也又飛鳴走既游

詠エイなどの類オイ生類シヤウライの興アツカふあり都スベて此門ハ

撰セツといづれも通用ツウヨウする也併シカシ是れも体用タイヨウ輕

重ヂウ乃差別シヤベツ虚實キョジツの如得ニトク有べき也トク多々タタ人ハ

禮樂詩書騎射レイカクシヨキシヤサイサウ祭養サイヤウれ類皆レイサナタイ待マテわる類也

見聞坐立動止ケンモンザリウドウシ并ヒナヒ以ヨリ飛鳴走既ヒメイソウクわどハ皆用ミナヨウ然

一ハかちやの違チガひみ眼メを付ツく文字モノジハ対タイして

此門ハ虚押門復用門キョウオシモンフクヨウモンへも通用ツウヨウするべ陸分文

字ハ虚實キョジツを撰セツて對タイの働肝要也ハタラキカンヨウ

○生植門 シヤウシヨクモン 此門ハ一切サイの草本サウモク菜蔬サイソク果穀クノコク

の類レイと載サイり是連佛レンハツよ云植物類也草本クハキ

竹タケのノ類レイのノかちカチいづれも通用ツウヨウして對タイり

とちりたり

漢和

三十九

漢和

三三

○食服門 シヨクフクモン

此門ハ一切の合款一切の衣款

をば載りたる門ハ二款と包りいづれも

通用して對する也其と器財門とも通用

すへまきかり

○器財門 キガイモン

此門ハ一切の寶貨器物の款

を集り食服門と通じて對する也

○光彩門 クワサイモン

此門ハ一切の綠色款と黒

白紅紫の彩と施と款又燈火款とて燈炸

れ之とけら燈燧乃明と筆をりたる種を

此門ハ二款と合するいづれも通用と其介

金銀珠玉の字も適人は光彩對する用也

べいかしやうの字款のまゝ也れれ註之

○數量門 スリヤクモン

此門ハ一生二鎗積録寸

尺の差毫釐乃異なり類とけり種り

漢和

四

漢科

四十一

佛といふ数字なり別の子細を一通して對
み用也又數量も通用れ他門の字ありた小
註之取く對し用也へ

○虚押門 ○復用門 此門ハ誘く虚

か終りの一兩用あり單にして可押有復も
して下用あり物といへ一東の類く忽通
同力との類單にして用也故く虚押門也

惣伺仲々 朦朧などの類是復用門也

らうへをたて俳漢はかふのといふもかを
通して用也へ一尤對と作る時ハ此のといふ也
を得へ一又態藝門へも通用也又字ばら
ゆるく態藝の字と虚字也かり
虚復の二門へ實字孤のいへま
作者を得へ

漢科

四十一

通用 ツツヨウ

乾坤門 ケンコン
家屋門 カオク
時候門 ジコウ

氣形門 キゲイ
人倫門 ジンリン

態藝門 タイゲイ
虚神門 キョウジン
復用門 フクヨウ

食服門 シヨクフク
器財門 キザイ

第三

十二門の文字去極しゆれ事

○乾坤門 ケンコン

是佛云天象降物運物風

禱と類水邊居所悉く此門に攝といふれ也

此佛の式目にて去極へべ但異訓比喻れ向は

字義よりして料簡を加ふべし是又佛式

随一 シヅカ
異訓比喻 イコトヒヨウ

○時候門 ジコウ
是四季夜分時分今古昔か

この形也佛式にて去極へべし又異訓比喻れ向は

おれど

○氣形門 キゲイ
是人倫之類なり去極しゆれ事

同形 ドウゲイ

漢口

漢口

や和乃境ワサカのいハ式シキとて如得コトん

○光彩門クワサイ 是黑白等コクヒマクれ色字イロジ又燈火トウカる

ふの火教ヒルイ排式ハイシキの通トウリ去サカキラ換イキ也トウ異訓イシ等トウの

料簡レウケン茶チ同トウト

○數量門スリヤウ 是佛イ去カズシ教字シキ也シキ式シキ以イ去カズシ

換トウべ一トウむトウ一トウより百千万トウまでトウの同字トウの異訓イシ也

てシキ式トウリの通シヤウキキ正直シキ去カズシ換イキべ一トウ其餘ツクヨ乃ス數

量字リヤウジの直指チキニ異訓イシ違チガハいシ料簡レウケン加カ之シ

第廿四 正字僻字之事オモテシ ヲウラシ

前マヘ云々タ分タ偶ニ句ク入ニ額ニかシとシ正字オモテシとシ不用ハシ也シ就シ

語ゴ熟字ジュクジとシけシふシ附ツキ心僻オモテウラのシ沙サ汰タ不フ及ク

今イマ神公シノキミのシあシ二ニをシ舉アゲ

○正字オモテシ 風カゼ池イケ山ヤマ橋ハシ家イヌ郷サト門カド

軒ケン秋アキ遊ユウ埽モツ飛トビ行ユク

難ナン 四十五

○^{ハシ}今^レの平字^ハ正字^ニ餘^ハ准^テカ^ル

○^{ウラジ}僻字
聰^{カセ} 聰^{カセ} 聰^{カセ} 邕^{イケ} 滇^{テン} 湫^{シウ} 岷^{ミン}

論^{ロン} 巒^{ロン} 圮^ヒ 梯^{テイ} 梁^{リョウ} 閣^{カク} 房^{ホウ}

廳^{テイ} 同^{ドウ} 郭^{カク} 邛^{クワン} 園^{エン} 園^{エン} 因^{イン}

檐^{エン} 棍^{クワン} 飲^{イン} 謠^{ヤウ} 邀^{ヤウ} 齋^{サイ} 操^{ソウ}

翻^{パン} 罪^{ズイ} 之^シ 徂^ソ 之^シ 徂^ソ 徂^ソ 徂^ソ

○^{ハシ}今^レの平字^ハ正字^ニ餘^ハ准^テカ^ル 百句^ノ

押^{オシ} 影^{カゲ} 之^シ 平^{ヘイ} 句^ク 小^コ 之^シ 押^{オシ} 出^デ 下^カ 用^{ヨウ} 也^ヤ

○^{ツラ}仄^{ヘツ}の正字
日^{ニチ} 雨^{アメ} 水^{ミヅ} 土^{ツチ} 石^{イシ} 野^ノ 海^{ウミ} 島^{シマ}

坂^{サカ} 夕^{ユフ} 女^メ 將^{カサ} 指^{サス} 附^{ツク} 八^{ヤチ} 有^{アリ}

在^在 或^或ハ^ハ出^出カ^カル^ルの字^ノハ^ハ平^平母^母

書^{カキ} 換^{カヘ} 日^{ニチ} と 陽^{ヨウ} 作^シ り 雨^{アメ} を 飛^{アス} 林^{リン} と カ^カ 類^レ

櫻^{ニタリ} 不^フ 可^カ 用^{ヨウ} 譬^{タトヘ} ハ 夕^{ユフ} 陽^{ヨウ} 斜^{ニシヒ} 陽^{ヨウ} 又^{マタ} 梅^{ツク} 霖^{ユキ} 秋^{アキ}

霖^{カメ} 類^レ の 熟^{ジュク} 字^シ の 心^{シン} と 不^フ 可^カ 用^{ヨウ} 餘^ユ ハ 可^カ 准^{クニ} 知^チ 也^ヤ

これ平かなれども前の仄字よ記とる字類乃皆僻
字かり物で平小 正字 仄小 正字 よく平考

第五 假名書乃事

今の作者の書とて何の掬もく一句れ主意
いもあつめ新作と用也甚僻事也之末假名
書は宋の陶九成が書史會要より日本にい
るはと載るるに七中華の詩賦も適

るなり其假名書は品類合記集よりゆか今
俳諧に用らるるにふか多し

○第一は其合記集にわる古人に用る熟字
を不用也

○第二は昔より和俗のわたりて書未終る
類と不用也多しんばゆる軽板 カキキタ まさか カキキタ
らる貧富 ナニ 煙草 タバコ りしりゆるの類は

漢和

釋

より品を形く方七或ハ其外ヨ万葉集
乃假字書ヤノ類方べき假字書トハ
川津 蛙 垣津旗 雁金 乳鳥
られ類集考もゆる物でいづこの假名も真
名より合をく平仄を細よべきかり

第六

心下返乃幸

心下返乃幸
心下返乃幸
心下返乃幸
心下返乃幸

上へ返り類又訓も類字ハ心下へ
ふふわく寄物也ふく相似る類字ハ心下へ
詞もゆるよとく此らハ分別ありて對向と付
へて爰も百分グ一を挙る也細字ハ書歸るハ
上へ不返かり

被官	前官	放生	放生	加役	加減	入魂	入來
被官	前官	放生	放生	加役	加減	入魂	入來
被官	前官	放生	放生	加役	加減	入魂	入來
被官	前官	放生	放生	加役	加減	入魂	入來

漢和

釋

點頭 ウチダテ 梳頭 カミダテ 掃地 サヤヂ 掃除 サヨ 傳言 デンゴン 傳受 デンジュ 落題 ラクタイ 傍題 ハラタイ

最花 ハツラ 殘花 サンクハ 看經 カネキン 看板 カバン 不堪佃 フカンテン 當作佛 タウサハツブツ

閣思君 ワザクレ 傍若無人 バウジマダブジン 一騎當千 イツキタウゼン

餘の准知とて

第七 聯綿字の事

これの音々も訓々も二字続きを同偏同傍
又の冠カと字般おれど字義一意の類なり

これらも又同連綿字に對する初云乃
とあり二を挙

乾坤門	宇宙	漢河	伯約	雪雪	雪霽
所名門	嵯峨	醍醐	諏訪	韃靼	崑崙
家屋門	拱材	柱柱	罔圉	色羅	鹿鹿
時候門	朦朧	踟躕	晚暮	睫瞬	晦冥
人倫門	賓客	妯娌	侏儒	娼妓	孽媿

氣形門	鳳凰 <small>ホウオウ</small>	鷲鷯 <small>シウリウ</small>	麒麟 <small>キリン</small>	蝴蝶 <small>コトウ</small>	鯢鱈 <small>ウナギ</small>
支體門	頰顛 <small>ガホウカシラ</small>	鬢髻 <small>ニハカミ</small>	軀軀 <small>ニルハタカ</small>	眼膜 <small>ニカチ</small>	鬮髻 <small>サシカウ</small>
態藝門	婚姻 <small>ヨメイリ</small>	醜酏 <small>クハヨヒ</small>	挨揆 <small>アイサツ</small>	葡萄 <small>ハラブタ</small>	婀娜 <small>ナメシ</small>
生植門	揚柳 <small>ヤナキ</small>	梭桐 <small>シユロ</small>	芙蓉 <small>フヨウ</small>	蓬萍 <small>カワホコ</small>	枸櫞 <small>ブルユカン</small>
食服門	粧妝 <small>オコシメ</small>	飽飪 <small>ブト</small>	袈裟 <small>ケサ</small>	襪襪 <small>フミカワ</small>	襦襦 <small>ウチカケ</small>
器財門	襪襪 <small>ヒカサ</small>	噴噴 <small>チヤルメラ</small>	瓔珞 <small>ヤウラク</small>	銀鉞 <small>ハイガキ</small>	舩舩 <small>フナフナ</small>
虛押門 <small>復用門 通用</small>	徘徊 <small>タチモト</small>	寂寥 <small>サビシ</small>	吧呀 <small>ワヤク</small>	做偈 <small>ヒラリマラリ</small>	彷彿 <small>ホノカ</small>

右の門々通用多し上は説き下考也光彩
スリヤウ 數量乃連綿ハ次の二物一攝之
カミ 説き下考也光彩

第廿ニツ物抄事

一二を挙
オニ 何れハ何れも字公云ふと名々別々の物と云

乾坤門	天地 <small>アマチ</small>	星霜 <small>ホイササ</small>	山川 <small>ヤミカ</small>	海陸 <small>ウミカ</small>	塵砂 <small>チリイサ</small>
家屋門	宮殿 <small>ミヤトリ</small>	樓閣 <small>ロウカク</small>	寺社 <small>テラヤシロ</small>	墻壁 <small>カキカ</small>	店棚 <small>ミセタナ</small>

漢和

カキ

時候門	春秋 <small>ハルアキ</small>	古今 <small>イニホイ</small>	寒暑 <small>カンショ</small>	朝夕 <small>アサユフ</small>	晦朔 <small>クイサツ</small>
人倫門	君臣 <small>クニシ</small>	父母 <small>カシロ</small>	兄弟 <small>アニフタ</small>	夫婦 <small>トウカ</small>	巫覡 <small>ミヨカニキ</small>
氣形門	鸞鳳 <small>ランホウ</small>	鶴龜 <small>ツルカメ</small>	虎狼 <small>トラオホカミ</small>	蝨蚊 <small>ノミカ</small>	鸛蛤 <small>シギハムシ</small>
支體門	容顏 <small>ヨウガン</small>	眉目 <small>ヒゲメ</small>	手足 <small>テアレ</small>	鬚髮 <small>ヒゲカミ</small>	左右 <small>サユウ</small>
態藝門	往來 <small>ユキキ</small>	起居 <small>タチキ</small>	貧富 <small>ヒンフク</small>	勝負 <small>カチマケ</small>	視聽 <small>ミルキク</small>
主植門	松竹 <small>マツタケ</small>	蘭菊 <small>ランキク</small>	桃李 <small>タナリ</small>	瓜茄 <small>ウリオホ</small>	枝葉 <small>エダハ</small>
食服門	酒茶 <small>サケチャ</small>	飯粥 <small>メシカユ</small>	衣食 <small>エビシキ</small>	綾羅 <small>レイラフ</small>	錦繡 <small>キンシウ</small>

器財門	琴瑟 <small>キンギ</small>	金銀	弓矢 <small>ユニヤ</small>	筆墨 <small>ヒツボク</small>	鐘鼓 <small>カネツヅミ</small>
光彩門 <small>連綿字兼之</small>	丹青 <small>タンセイ</small>	黑白	紅紫 <small>コウシ</small>	緋素 <small>ヒソ</small>	粉黛 <small>コンドイ</small>
數量門 <small>同</small>	百千	億兆 <small>ヨクテウ</small>	釐毛 <small>リンモウ</small>	咫尺 <small>シセキ</small>	種類 <small>シユルイ</small>
虛押門	總別 <small>ソウビツ</small>	始終 <small>ハシメヲハリ</small>	安危 <small>アノキ</small>	高下 <small>タカヒク</small>	強弱 <small>キヤウジヤク</small>

右の諸字はなご字義別定る如類也射句乃公
得連綿二の物のまのまのありべき也或人歳日乃
標れ句小祝子草とつ子射よ大まねと作たり公

漢和

世

又ヨロシカラ オヤフ
 不宜也 親子ハ二物也 夫夫トハ一物也 親子州
メヲトニツ 是女まねかと不孫也 此多ぶ目よりく下如得
カトニツ 女まねハ門妻れ事也

第廿九 二物物之事

これハ何れモ字瓜二物トモセ別々の物トワ
 多しん

- 日月星 アメツチヒト 天地人 クダゲンニ 過現未 ヒユレヤゴ 儒釋道 キゴシコク 魏吳蜀

羊鹿牛 ヤウロクゴ 寸関尺 スンスンシヤ 貪嗔癡 オンジンチ 松竹梅 シヨウチクバイ 金銀銅 キンギンドウ
 かう中れ難い不才称討皆と字ハと字物と
 射と

第三十 四物物之事

これハ字瓜四物トモセ別々の物トモセ
 東西南北 トウサイナンホク 春夏秋冬 ハルナツアキフユ 甲乙丙丁 カウラツヘイテイ 君臣父子 クニシシフシ
 源平藤橘 ゲンヘイトウキツ 麟鳳龜竜 リンホウキリヨウ 身體髮膚 ミンタイハツフ 稻麻竹葦 イヌマチクイ

漢中

廿九

漢和

五十三

琴瑟書畫 キンキシヨクガ うちこれ類推して知むるを類推に用ひ

第卅一 躍字の事 フトリシ

ふれい十二門いづれをも同字を置てはる言句也又置字もいかりぬんば

村 ツシク 家 カ 年 トシ 日 ヒ 地 チ 鶴 トビ 調 テウ
 閃 ヒン 巍 キ 堂 ドウ 斑 ハン 錦 キン
 かしゆくれ類 ルイ 倣漢 イカニ ちかていふ不不称計いふれと

名類の躍字は以類とせしめて躍字折一處 トヨルイ フトリシ ツイ フトリシ オカリ
 へ トヨロ イシ ナカ カミ ワ
 を智 カヘ く外 ソト よ者 モノ べ

第卅二 邊字の事 ホトリシ

ち終い十二門いづれの内もと乾坤 モン ケン コン ケ コン カ ロ
 門 モン へ入 イ る ル 及 キ 乾 ケン 坤 コン 門 モン は ハ わ ワ け ケ ぬ ヌ も モ 輕 カ ま マ 字 ジ 以 イ
 つ ツ かり カリ る ル ぬ ヌ ん ン 心 シン

漢和

五十四

右	内	邊
左	外	底
傍	前	中
端	後	間
	砌	隙
	表	際
	裏	畔
	隅	上
	頭	下

かろくの類又多く此等此字のいづれも
 小と通用して對よ取べきなりと云ふ
 句は口手目脇腰などの字邊字
 たりし事あり

第三 輕字之事

凡ハ皆虚押の字多く然るも
 用らる字なりと云ふは其の類も
 下用多しハ其の類も其の類も
 哉矣也の助語字れ事也加し
 行住坐卧見聞持引などのけり

漢和

五十五

漢和

五十五

わるはよりやのびに今初公けり一ニを書集カキアツ
 此コノ不フ其シ字ジ其キ句クの字ジ義ギ以ヨリて輕キ重チ之シ
 之シ或アルハ窮キウ兼ケンをシ用ユてハ輕カ一ヒト
 其シ方カタ妙ミウ重チ一ヒト又マタ從シヨウニ冬トウとシテ用ユてハ輕カ一ヒト
 輕カ一ヒト之シ後ノチやシテ用ユてハ重チ之シ也ナリ
 ○輕カ字ジ平ヘイ類レイ 非ヒ其シ難ナン寧ネイ皆ミナ先マツ
 兼ケン而ニテ哉カナ 常ツネ惟タ唯タ之シ為ナリ 爲ナリ 兮ケイ

語ゴ 耶ヤ 焉エン 何ナニ 乎カ 歟カ 如コトシ 於オ 維コ
 從ヨリ 耶ヤ 焉エン 何ナニ 乎カ 歟カ 如コトシ 於オ 維コ
 應オウ 瀕ヘン 云イフ 茲ココニ 無ナシ 愈イ 猶ナラ 然シカ 元モトヨリ 俱トモ
 ○同ドウ 以ヨリ 類レイ 此コノ 茲ココニ 宜イハ 當トクニ 同ドウ 便スベク 耳ミミ
 未イ 亦モト 豈ア 不ズ 厥ソノ
 動ユ 好コトシ 儘ミ 與ト 是コレ 已スニ 似ニク 豈ア 不ズ 厥ソノ
 足タ 必カナラ 也ナリ 欲ホク 乃イ 可シ 或アル 共トモ 尚ナラ

漢和

五十六

本モト在アリ有ヨ要カネス况イハシヤ則スナチ

この勢イを餘ヨに可レ准シ知ス也

第四

押韻字アライニシ犯用ヲカシモトス於ニ事

押韻アライニの字シは百韻イシ一ザ度サタリに定サるリ其韻ソライニ字シ未イダ韻ズ礎シざるニ前ニ中ニにツつクるニたラむニ其ツ中ナカにニ字ジ去サリとクとク句ク去クの物モノハクまシひナく
貝カイ一ヒト然シ又マタ風カゼ一ヒト更マタ雲クモ文フミ山ヤマ洲シマ人ヒト真マコト身ミ同ナニ花ハナと

この字シ麻マこの字シ去サリたラむニたラむニ正マシ

字ジ揮ヒるル一ヒト或カゼハカゼ颯カセ支カセ陽カセ岷マニ真マコト崑カニえカと

彼韻カライシの懐紙クワイシいマまシとク出デるル前ニ風カゼ山ヤマの字シは

くク事コトづクもモ不フ若ニ也ヤ或カゼハカゼまシ船フネ先マタ舟フネをシまシと

五句イツク去サリるル共ニ外ニの僻字ヒナカシにシてモ不フ揮ヒ也ヤ是コト未

乃ナラバ格カクとク幾イツク多クれル字シもモ知チ得エるル一ヒトまシとク押オシ

韻インの字シにシてモ連綿レンメン字シ不フ若ニ多クるル一ヒトを

漢口

五十七

空ろ窟窿 共一東 崔嵬 共仄哈 蹉跎 共收 又連綿

支頤 共支脂 須臾 共虞模 傾城 共庚耕清

如斯の候字いづも方どしお移るの上乃て字い

まご顔より不押前もて不用多し候はれ

東風 共一東 醫師 共支脂 ぬれおろく乃候

字ハ周捨ありがけ候句いづもいづもいづも

不註

第五 六言句法の事

近世より三言と和漢漢和より六言の作をあら

此句はとゞく五言に格也二四不同避三連前

しぬれど起句對句の法も亦同あかり只

五字同み平仄與棄乃作る也與棄とは

第五字同みおのて平み平を對し仄み仄

を對する處ゆる今句法もんとて誰ぞ

漢口

の集

詩稱

詩稱

起句 妙法一舉 飛トバ玄ケ酌ラハス

對句 大一般一若 卷ク黃ク英ク

必新カク五字月小ゲシ雲クモと黃オホシと同平ツイと對ツイとツイ又

起句 談カミバ國コク一姓セン一爺ヤラ虎ウラ一嘯ウラフク

對句 質ニセ朝アサ比ヒ奈ナ鶴トビ一遊ユ

出終又虎トビと鶴トビと同オホシ仄ヒラを對ツイとツイむ每句ニイク句ク

中ツイ以ツイ對ツイとツイらツイいツイわツイ次シゼン尔シゼン然シゼンの事シゼン也シゼンまシゼンるシゼン韻インハ漢イン

句キクの起句キクを付キクるキクは五字月キクみキクけ格カクある也キクこキクも

六言コシ一風流フカシかり句ク孤得エとク知カらカ七セツ一説セツ云セツ六

言コシの句クホフは五コシ字コシ月コシみコシけ格カクある也コシこコシも

不コシ可コシ有コシ也コシいコシつコシりコシ尤コシ古コシ詩コシは其コシ作コシ例コシ多コシく

或コシハ禪ゼン語ゴ乃コシ四コシ六コシ言コシの長句キク隔句キクかコシらコシんコシも

ゆる和漢コシ和コシハコシ茶チ一コシいコシふコシぎコシくコシ獨句トクのコシ作コシを

まコシハコシけコシのコシぎコシくコシ才サ力リ也コシ若モシ又コシ七言コシのコシ作コシをコシある

漢和

漢和

とも常ジョウホフはのあし一室コに略リヤクなり

第六

漢句訓點の事

これハ漢句カンクハ點テンを付ツクはせといづれの字ジに
と音ヨム小後コゴといは右ミハ豎タツ點テンを引訓ヨミぬよむ
時トキハたゞ豎タツ點テンを引ツク事通例ツツレドなり二字ジたれ
音ヨムハ後ゴ續ツクくらんハ上下カミシモ兩字リヤウジの間マ右ミ乃ナ方カタハ
点テンとゞしむと字ジの中間チウケン小コと点テンとれんが

文字ブンジハ畫クワハ混コンでまろ二字ジ共キ訓ヨミハ後ゴと上
下リヤウジ兩字リヤウジの間マたれ方カタハ點テンを引ツク又湯桶ユトウよみとて
上カミ一字ジ訓ヨミ下一字ジハ音ヨムによむ有是ユシ字ジの表オモハとハ
た下タハ右ミハ點テンを引ツク又斗ト桶ツケよみとて上一字
ハ音ヨム下一字ジハ訓ヨミによむハ上カミハ右ミ下タハ左ヒダリハと点テン
引ツク也又一字ジ乃ナ訓ヨミ二字ジと字ジ續ツク方カタ訓ヨミハ右ミ乃ナ方カタ
ふてハ音ヨムを付ツクる或アルハ和訓ワクンの捨假ステカナなるを付

漢句

第六

下付いたの方より訓の置点或不可引又の返點
 かも付下る句は大略後中う移るる方物されば丸
 右の返より不可引及今字多に神公のころ句或は
 返用を致しとるるべし

文 錢 前 佛 去

此句のどとん 文 錢 前 佛 去
 下れ一字又の捨假名を付といたの点に不可引又

雷 槌 雷 槌 雷 木 出
右点音 ライツイ 左点訓 スリユギ 上右音下左 トシキ

もんぎ斗桶よみ也捨假名の常れどく二字一字
 三字四字の二字けけけを名得へき也近世の作
 者初より不限非無不見まの不可ぬるを
 後分て假名に分る事大さふあやむらうれも
 古来の詩文經書かゝり後本なる句法ハ各訓
 不可用或は又令少 不世 同 懣鬱悒 万葉集

殊勝

ミチラス 壽命院

強顔

漢書

薄媚

盜竈

僕儼

世事便

又

ミカラス 子イハス

黙

かど

の

ぞ

た

例

來

今

覽

自

歟

耳

副

乃

べき

かり

在

の

字

は

ふ

在

外

和

訓

か

も

訓

点

の

不

可

分

又

秘

を

け

人

群

門

來

鳥

一

逐

佗

里

叫

猿

牽

く

和

句

の

詞

は

く

い

假

名

か

ん

は

和

句

に

業

也

況

や

漢

句

の

鳥

引

直

群

來

門

鳥

一

佗

叫

里

猿

牽

かゝるに轉用を改りて不詳也前の江傳の
 歎神公此人間ゆるう終る句意は上より下へ
 廻り下より上へ返る事不鍛練ゆ人也よりく
 勿得べし

第七

古今仮名書の字類

これの上の註しは古人のものなりし多かりし
 一載るる假名書也俳諧亦も漢句和句共ふ

第一これを用ひべし

○乾坤 下字平類

土期	土宜	屠其	質麼	娑麼	娑麼	沙羅
葵寄	由其	洞容	伺容	客之	夜漫	眉屠
美津	恒尼	達琴	暝羊	番响	津梁	卒那
波盧	安居	陰越淋	水岸波	火阿梨	安楯連	

○同 下仄

漢和

都嗜ツキ 兔記ツキ 記喇キリ 下米アメ 阿母アメ 刺木クモ 汝實ニジ
 浦思ホシ 欽吉カレ 客立カレ 容記ユキ 耆質キシ 明動ミツ 且尔タニ
 孤刺ウラ 難蜜ナミ 何燕イユ 曼宅ニド 角鼈カベ 乃出ナツ 交從命カスミ
 名藥乞ニヤコ 一徇イチン つき

○氣形

下平シモヘウ

凍蘆ワル 各雜カリ 烏壺提ウクヒス 酸銀サギ 伽羅司カラス 幡都ハト
 汗書ウシ 叱廬サル 勻濃イヌ 沽滴ウフ 迂游ウラ 緣毘エヒ 喝尼カニ

伯泥チ

○同

下仄シモツク

哆喇トリ 敬地キチ 貪鑑タカ 客利カリ 肝麻面カモメ 土撥滅ツハメ
 胡馬ウマ 柁轉トラ 吓三義ウサキ 無世ムシ 閃藪セミ 般腴屨ホメル
 伊倭元イナコ 喜母クモ 雨尾ウラ 間脉カメ

○支體

下平シモヘウ

赤藕ニユ 母兒ア子 必殘ヒガ 窟知クチ 提テ 又知アチ 伽是羅カシラ

白姐依 アキト 捌脱湮 ハタヘ

○同 シモフ 下仄

覺蜜 カミ 索葛 カミ 弭々 ミミ 室所 シタ 割宅 カタ 窟地 クチ 卑揭 ヒケ

燕涅 ム子 撥樂 ハラ 功志 コシ 加悉 コシ 家銀突 アキト 斯学卓 スガタ

必東滅 ヒツメ 徒兀剝 ツハサ

○坐植 シモヘウ 下平

發南 ハナ 波那 ハナ 万都 マンツ 未麼 モハ 姑離 キリ 夏和 アウ 堵林溪 ツバキ

八提詞 ハチ 木美提 モミ

○同 シモ 下仄

目面 ムメ 多揭 タケ 著古 キク 下室 アシ 鴉紫 アヒ 鬚羯 スケ 縞子 コケ

移禰 イ子 姑薩 クサ 耶奈及 ヤナキ

○食服 シモヘウ 下平

沙嬉 サキ 遠比 ヲヒ 女質難 ニシキ 巨羅攷 コロ 母蘇尊 モスツ

○同 シモ 下仄

漢字

沙揭 サケ 摩乳 モチ 沙展 ツテ 印埴 イト

○器財 シモヘウ 下平

朔々梨 スハリ 分天 フテ 分梯 フテ 夫梯 フテ 蘇民 スミ 疏眉 スミ 朔皮 スミ

蘇弥 スミ 草弥 カミ 法訶 ハコ 賀多 コト 齋婆 ヒハ 蜜那 ミナ 發單 ダ

安弥 アミ 塗延 ツユ 且磨 タモ 洗和 シホ 滿件羅 マクシラ 模怛伊 モタンイ

○同 シモツク 下仄

蘇利 スリ 分直 フテ 不律 フテ 寸味 スミ 呼土 クツ 虎視 クシ 阿偈 オケ

喝薩 カサ 補念 フ子 蛇越 ガキ 注衲 フノ 罔祢 カ子 瞞演 フエ 已上

この字類乃外に櫻々書成る用るものあり
〜以前より後

第廿八 光彩通用字類 額外女々并異訓

○平字 ヘウジ 鉛 オシロイ 緹 カイロ 蔽 カミタラ 殷 ウルミイロ 幽 カイロ

鰲 ケイロ 金 キカヨ 銀 シロカヨ 藍 アイ 斯 シロシ 葱 ミツイロ 焦 モイロ

黠 ヒツタイロ 纜 ヌミイロ 濃 ダミ 烏 カシ 光 ヌメ

六十六

○火類

燭 ノス 燼 コキカシ

○仄字

禍 チヤイロ 黻 ウスミ

黠 クキリ 澱 アイニル

蓋 エトル 黼 コシホ

鵠 名ホシ 錦 ニキキ

灰 ハイ

燔 モヘキ

頰 カク

黻 ウスマスミ

茜 アカキ

黼 ミルチヤ

煤 ス

災 ヒツク

絢 イロイト

絨 子スミイロ

粉 シロイモ

歎 ヒキタ

燎 ニハ

柴 モハ

椽 ワタミ

黼 フスイロ

黠 ミルチヤ

識 カケ

炙 スルシ

薪 タキ

純 ニライロ

緼 ツチハイロ

縉 モイロ

赭 ニツカ

煇 ツキ

艶 タハイロ

黠 ニツク

狡 ニホリ

駮 ブチ

○火類

炷 タキカシ 薰 タキモ

研 ヒソク 夙 ヒオキ

此外殊玉乃教雪霜日月の光るる類

横柄を心光彩の用のべし

○平字

函 ゴトク

数量通用字類

鐘 シヨウ

竹 タケ

女 メ

同鉄

衆 モウ

燦 ハシ

容 トホ

炙 ス

燧 ツミヤキ

炮 キツチイロ

煉 キツチイロ

賈 トホ

燂 ケシ

燔 サシ

炮 モシ

燂 フスル

燔 ハイロキ

跋 ヨシ

煇 ニツカ

仇 <small>ウツ</small>	廩 <small>ニシヨウ</small>	○反字 <small>ソウジ</small>	純 <small>ジュン</small>	分 <small>ブン</small>	前 <small>ゼン</small>	同 <small>ドウ</small>
耕 <small>コウ</small>	秉 <small>メイ</small>		長 <small>チヤウ</small>	貫 <small>クワン</small>	多 <small>タ</small>	中 <small>チュウ</small>
數 <small>スウ</small>	散 <small>サン</small>	鋒 <small>ホウ</small>	孤 <small>コ</small>	餘 <small>ヨ</small>	央 <small>ヤウ</small>	重 <small>チュウ</small>
册 <small>サツ</small>	舉 <small>キョ</small>	繫 <small>ケイ</small>	群 <small>クン</small>	凡 <small>バン</small>	并 <small>ヘイ</small>	初 <small>シュ</small>
後 <small>ゴ</small>	敵 <small>テキ</small>	糧 <small>リヤウ</small>	諸 <small>シュ</small>	圍 <small>イ</small>	丁 <small>テイ</small>	皆 <small>ケイ</small>
少 <small>ショ</small>	痛 <small>ツウ</small>	轄 <small>カツ</small>	大 <small>ダイ</small>	奇 <small>キ</small>	單 <small>タン</small>	元 <small>ゲン</small>
反 <small>ハン</small>	徼 <small>キョウ</small>	穀 <small>コク</small>	比 <small>ヒ</small>	來 <small>ライ</small>	端 <small>タン</small>	先 <small>セン</small>

次ジ 巨キョ 伍ゴ 部ブ 類レイ 等トウ 偶オウ
 大ダイ 小ショウ 上ジョウ 下ゲ 長チヤウ 短タン 合カフ
 姦カン 判パン 細サイ 太タイ 竝テイ
 一の類ルイ 有ユ 句ク 作サ をヲ 以テ 爲シ 之ヲ 爲ス 之ヲ

第甲 韻外并叶韻字類
 凡フヨウ 和漢漢和ワカン 押ヨシ と 所ショ の 韻類インレイ ハ 也 足軒ソクケン
 素然公ソゼン 通院チュウイン 虎關師コクワンシ の 聚分ジュブン 三十一韻イン 乃

漢
 六

平聲ヘウセイの中ウチより十一韻を撰ヨリイタぶ一倭國ヤマト唐モロコシ乃
 熟語ジュゴ熟字ジュクジを付添ツケスヘふ事コトして和訓ワクニ押韻オシインの各
 付ツケするコライ瓜ウリ古コ来ライより連款レンクワン俳諧ハイゲキも用ヨウひら
 迦世キセ之五韻イツゴと云増韻ゾウイン出イデキるトク連款レンクワンのイレゆルて
 亦ホカ用ヨウ之ノ當世トウジ俳諧ハイゲキのイレゆルの韻イン款クワン
 乃ホカ外ホカもモあアまマしシひヒなナくク用ヨウひヒ其シ上シにニ反韻ハンインれレ上シ去キョ
 入ニラと聲セイもモ用ヨウひヒ事コト適タニサカ一イツはハゆユるル事コトもモ

聚ジュ分フンの中ウチにニ少韻セウイン乃百韻ヒャクイン一イツ度タク不フ足ツクかカるル矣
 雖シ用ヨウえエ本詩賦ホンシヒの長篇チウハン然句ゼンクなナらラんンの韻外インガハ
 并ナラ叶韻ケフインと用ヨウひヒ其シ上シにニ十一韻ジュウイチインをヲ用ヨウひヒ粗ホくク
 一イツよりヨリ終シュウへヘ連款レンクワンもモ叶韻ケフインと用ヨウひヒ例レイゆユ
 さサんンもモこコろロにニあア書カキよヨいイ餘韻ヨウインの沙汰サタ也
 今イマ其シ外ガイの少韻セウインにニわワらラるル和韻ワテウ乃先達センダチ乃
 然句ゼンクにニ用ヨウひヒらラるル韻外インガハ叶韻ケフインの字ジ以ヨリ基キて

寔^コに誌^シしゆる佛漢和の抄のてををを
 顔^イ礎^{ツキ}に用^レれしに聚^レ分の三十一款いづれ
 けり入^ビ顔^{イン}とわけて百款一^レ度の真^コの^マ約^シ
 可^カるるべし^レ於^レ下^ニに^テ明^クし^レど
 一^レ惣^シて款^イ礎^{ツキ}に顔^イ外^ハ或^ハハ叶^レ顔^ヲを^レ用^ルに
 幸^ニ然^ラ向^テたふふ^レ得^ルる^レ幸^ニ也^レ連^テ行^ク又^ハ日^ノド
 佛^ノ借^ルよ^レわ^レの^レも^ハ五十^ノ款^ノと^クの^レ後^ニ用^ルし^レ多^ク

可^カる^レ但^シ射^シ向^クを^レん^レつ^レて^ハ幸^ニ款^ノの^レ字^ヲを^レぞ^ク
 幸^ニ事^ノわ^レぶ^ハ五十^ノ款^ノの内^ニも^ハと^ク余^レ然^レハ^ハ可^ク用^ルに^ハ又^ハ江^ノ微^ニ
 佳^カ成^カわ^レの^レが^ハ款^ノハ^ハ何^ノの^レも^ハし^レを^レ押^シ用^ル也^レ七^ノ古^ノ人^ノ向^ク
 にも^ハ其^ノ格^ヲ傳^ルる^レ又^ハ考^レ伝^レれ^ル經^ノ篇^ノに^ハ款^ノ也^レ用^ルる^レ幸^ニ
 一切^ノ不^レ可^ク也^レ傳^ルる^レも^ハ其^ノ所^ニは^ハ通^ル也^レを^レい^レは^レ也^レ
 一^レ叶^レ顔^トい^ハは^レ款^トと^ハ彼^ノ款^トと^ハ通^ルと^ハる^レ字^也也^レ也^レ通^ル
 款^ノわ^レも^ハも^ハつ^レか^レり^るも^ハも^ハ冬^ノ顔^ノに^ハ兄^ノ庚^ノ耕^ノ清^ノ江^ノ

縱 エミ
カチソリキ

腫 フ子
イタ子

○ 叶

禺 キヨウ
スミ

兄 キヨウ
フニ

疋 キヨウ
イキト

功 コウ
イサラシ

龍 ロウ
イヌテ

通 トウ
カク

詢 キヨウ
許客切平声

○ 江

○ 外

峴 ハシ
マ

控 コウ
コサメ

柳 ハシ
土精

逢 ハシ
姓也逢蒙蒙射於羿

鷓 ノウ
カリ

鷓 ニウ
越王鳥

駟 ハシ
ムニ

鬃 ソウ
モトリ

鬃 ソウ
カニ

觥 コウ
ツル

膿 ノウ
メカ

肛 コウ
ル

疔 チウ
ヤヒ

躩 サウ
イヒ

懷 サウ
ヲソル

從 シヨウ
ムサホル

江 コウ
タケ

江 コウ
シ

降 コウ
フキ

江 コウ
サケ

瓠 カウ
一名胡豆

楮 カウ
木不秀

稔 ソウ
ウニル

禡 サウ
マシ

從 サウ
モタイ

珉 コウ
受十介

珉 コウ
タニ

舩 コウ
子

艘 サウ
モアイ

艘 サウ
ホ

柁 コウ
帆未張

峯 ホウ
ト

控 コウ
ヨリ

駱 コウ
名

○ 叶

虹 コウ
ニシ

霜 サウ
シモ

迄 コウ
ウサキ

忘 ハシ
ワスル

牀 サウ
トカ

從 ソウ
ヨリ

蒙 ハシ
カウ

泥 ヒ
水名

澁 ヒ
コサメ

○ 微

○ 外

歸 キ
ヤニ

泥 ヒ
水名

澁 ヒ
コサメ

魚

雁 符非及平又去

○外

陸

魑

鷄

○叶

緇

懷

畏

蓆

養

揮

錢

嫜

棘

機

能

蟻

臧

鰓

非

斐

斐

駝

擊

蟻

○叶

朱

銖

孚

苧

情

叶

吳

籬

蟻

輸

鑿

礪

潛

練

帶

初

斃

擣

啖

稽

蘆

脛

籬

驢

蝓

蟻

鮒

籬 籬 籬

○佳皆 ○外

體 <small>カイ シロシ</small>	葦 <small>サイ シラ</small>	叶	膜 <small>カイ サナ</small>	篋 <small>タイ タコ</small>	麤 <small>ハイ ミテ</small>	肱 <small>ハイ アキ</small>	峽 <small>カイ タビ</small>	鰓 <small>サイ ツツ</small>	岨 <small>カイ タビ</small>	虺 <small>ハイ ミ</small>	鮭 <small>ハイ サ</small>
來 <small>ライ キタ</small>	愚 <small>サイ ベダ</small>	咳 <small>カイ キ</small>	裏 <small>カイ シ</small>	臺 <small>タイ タコ</small>	脰 <small>ハイ アキ</small>	稜 <small>ライ タビ</small>	稜 <small>ライ タビ</small>	稜 <small>ライ タビ</small>	稜 <small>ライ タビ</small>	藍 <small>カイ タビ</small>	裡 <small>タイ タコ</small>
		又 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>
		藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>	藁 <small>サイ タビ</small>

○文 ○外

閤 <small>ガイ ヤハラ</small>	叶	鼓 <small>コ タイ</small>	杖 <small>シ タイ</small>	粉 <small>コ オヒ</small>	礮 <small>イ コ</small>	積 <small>コ ツ</small>	閤 <small>コ ツ</small>	槿 <small>キ コ</small>	禮 <small>コ コ</small>	藝 <small>コ コ</small>	鮓 <small>コ コ</small>	駁 <small>コ コ</small>	塏 <small>コ コ</small>	零 <small>コ コ</small>
		斲 <small>コ コ</small>	斲 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>
		斲 <small>コ コ</small>	斲 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>
		斲 <small>コ コ</small>	斲 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>	積 <small>コ コ</small>

漢和

漢和

○寒 カン

○外

驩 カン

鬘 カン

酸 カン

肝 カン

麁 カン

箴 カン

儷 カン

忤 カン

苴 カン

藥 カン

○叶

藩 カン

攢 カン

敦 カン

半 カン
鼻眼切平又去
ナカハ ワカフ

○刪

○外

戲 カン

彪 カン

虢 カン

獾 カン

鷓 カン

鷓 カン

驢 カン

蟻 カン

顧 カン

取 カン

姍 カン

朕 カン

關 カン

揮 カン

拵 カン

樊 カン

○叶

潛 カン

藩 カン

樊 カン

般 カン

反 カン

散 カン

○肴

○外

境 カン

庠 カン

媯 カン

鷓 カン

咬 カン

姣 カン

頤 カン

髻 カン

漢

漢

薄田
ヤセダ

タカキ

タヘメ

サイ

ヒツ

トリナク

カキヨシ

ナカホ

カミ

ハギ

○

○

カセ

カ

水名

タビ

多艱切平又上
カス ヒルカ

相聞切平又去
スタレタリ

○

フヒツケ

一カキ

兵衛切平
スレタリ

ミタリ

カキ

ニタカ

カウ

イナコ

カゴ

ニラム

ア

井ノク

ウラ

トウ

トライカ

カミ

○

○

キヌ

ホウ

ヨシ

鼻眼切平又去
ナカハ ワカフ

○

○

祖官切平又去
ヒ多 アツル

アツル

ウチ

イダ

キハル

スミ

ムカ

○

○

ミ

スミ

ムカ

○

○

ミ

スミ

ムカ

七十五

○ 矚 シロ

○ 唼 サウ
小兒声

○ 藪 カウ
チヤン

○ 桃 タウ
ヒツチ

○ 枹 ハク
ムスヒバ
結葉

○ 旃 サダ
タ

○ 輶 サダ
イタ

○ 鞞 ハク
ナヒ

○ 炆 カク
アツク

○ 勺 ハク
ツム

○ 恆 カク
ミタ

○ 豪 カク

○ 外

○ 騶 サダ
ハチ

○ 騶 タク
フホ

○ 障 カク
シタニ
タニ

○ 滂 ロク
ニタ

○ 鴈 タク
モス

○ 駟 タク
馬四歳

○ 蝻 ロク
ヒク

○ 蝻 タク
イナゴ

○ 蠖 カク
ガク

○ 翱 カク
トブ

○ 輶 ロク
カク

○ 藪 カク
ヒク

○ 楸 タク
ヒサキ

○ 耗 タク
フエ

○ 笊 ロク
タケ

○ 媯 カク
タカ

○ 帽 タク
ツル

○ 裯 タク
ヒトモノ

○ 翽 タク
カク

○ 璈 カク
樂名

○ 醜 タク
ヨ

○ 輶 カク
ミタ

○ 侵 シニ

○ 外

○ 寢 シニ
イ

○ 僦 シニ
戴

○ 駸 シニ
ム

○ 蟬 シニ
シ

○ 鱣 シニ
ヒ

○ 椶 シニ
カ

○ 藻 シニ
ガ

○ 叶

○ 南 シニ
ミ

○ 十 シニ

時深切平又入○陳郁曰十音
諺謂之長安語音トヲ

○ 覃 タシ

○ 外

○ 齒 カク
マ

○ 櫛 サニ
ヒ

○ 鷗 シニ
ホト

○ 鷓 アシ
カ

○ 驪 タシ
ミ

○ 糝 サニ
シ

○ 麒 カシ
ト

○ 駘 カシ
子

○ 蟬 タシ
シ

○ 吟 カシ
イ

○ 飲 カシ
ク

○ 蕘 タシ
ヒ

○ 蕘 タシ
ハ

○ 蕘

○ 蕘

澤利
七十

○ 澤 タン

茸 カシ

欄 ラン

袿 ケイ

瀾 ラン

○ 盛 サン

匣 タン

籛 ア

豁 カク

黠 アツ

○ 蕨 ラン

盼 ハン

幘 タン

淹 エン

湛 タン

○ 叶

簷 タン

絨 カン

淹 エン

湛 タン

○ 鹽 エン

○ 外

霰 セン

霰 セン

潛 セン

○ 穢 ゲイ

蚋 セン

觥 セン

鯨 ケン

髮 セン

○ 慝 エン

疝 セン

蒼 タン

斬 ザン

酤 ケ

醃 エン

綬 ジュ

緝 ケツ

杓 ケツ

礫 ケツ

○ 香 ケン

巖 ゲン

菴 エン

閻 エン

嚴 ゲン

○ 叶

外 ガイ

岬 カシ

灑 ザン

巖 カン

○ 咸 カン

○ 外

嶮 カシ

巖 カン

○ 齧 カン

漸 サン

臙 サン

猪 ア

兔 ザン

○ 齧 ガン

漸 サン

暫 ザン

措 ア

劓 ザン

○ 芝 ハン

蒹 ケン

欂 ガン

枝 シ

繆 ミウ

漢
七

温カン サカキ 槭カン ハコ 鈔サ ネキ 城カン タミ 艦ガン フ子

黻カン ナスミ 儻ガン ソムク 儻ガン ソムク 歎カン 古岳切平又上 歎カン 古岳切平又上 歎カン 古岳切平又上

叶 鬚サン ミカ 歎カン 古岳切平又上 歎カン 古岳切平又上 歎カン 古岳切平又上

楓シン カテ 鑑カン 古咸切平又去 鍼カン リ 炎タン ホラ

漸サン タカ 以嚴韻攝之

凡三百六十六字 外二百八十八字 叶七十八字

○嚴凡 當韻僅七字以咸銜韻互用為一韻者也

第壹 狂聯式目 五ヶ條

一 今人作狂聯放用戲謔之語イナヒト ツルニ フホクニニ ユキボク

可也然漫勿作亂雜之俚言ナリカレ 漫勿ニ作スニ 亂雜ニ 俚言ニ

不用三十一年來之世諺也不用ニ 三十一年来ニ 世諺ニ

私云二十年來の世積なりとも香藉風流私云ニ 二十年來ノ 世積ナリトモ 香藉風流

乃幸實言語ハ射句をんりて用歟乃幸ニ 實言語ハ 射句をんりて 用歟

一氣形生植數量朱引隨本例可一氣形生植數量朱引隨本例可

隔^ツ二聯^一器^一財^一食^一服^一隔^テ一聯^一可^ナ也
 並^ニ通^ニ用^ス之^一疊^一字^一可^レ隔^ツ一折^一也
 和^ニ云^ニ乾^ニ坤^ニ時^ニ候^ニの^ニ沙^ニ法^ニ不^レ見^スる^ニも^一重^{オモ}
 き^ニ物^ニの^ニ二^ニ聯^ニを^一隔^テぐ^一一^ニ物^ニの^ニ一^ニ聯^ニを
 隔^テぐ^一和^ニ人^ニ倫^ニの^ニ氣^ニ形^ニを^一隔^テぐ^一も
 朱^ニ引^ニき^ニん^ニん^ニと^ニ人^ニ倫^ニの^ニ一^ニ聯^ニを^一隔^テぐ^一も
 和^ニ人^ニ倫^ニの^ニ折^ニ也^一下^ニ隔^ツ二^ニ聯^ニ

と^レは^レ四^ニ句^ニ去^リ一^ニ聯^ニと^一隔^テぐ^一の^ニ二^ニ句^ニ去^リ也
 一^ニ凡^ニ聯^ニ句^ニ之^ニ句^ニ法^ニ并^ニ百^ニ句^ニ之^ニ懷^ニ紙
 等^ニ皆^ニ本^ニ例^ニ也^一若^シ用^ニ熟^ニ語^ニ則^レ雖^モ為^ス
 五^ニ字^ニ一^ニ平^ニ應^ニ許^ニ之^一也
 和^ニ云^ニ懷^ニ紙^ニの^ニ法^ニの^ニ初^ニ折^ニ面^ニ十^ニ句^ニ裏^ニ二十
 句^ニ三^ニ折^ニ面^ニ二十^ニ句^ニ裏^ニ二十^ニ句^ニ三^ニ折^ニ面
 二十^ニ句^ニ裏^ニ十^ニ句^ニ初^ニ合^ニ之^ニ折^ニを^一百^ニ句^ニ也

その異名をどし用ひたるは能く其
なごの類とす用但是も有るま
かゝる又同季の去中より後多し一説
云々季は順くに用ゑる前後を以て
超越とす季は一説ははるる
立然七懸乃至見通りりても其
間と他の季れ向ふるときは同季を

不用ともつら一説ははるる
くわめくハ俳諧の格よたより
三懸のりも端々ほの同季とも可
用歟
此在縣式ハ眞珠庵如泉先生の秘苑
きりぬ敷ちりきり終るもいまご秘を
るる採りたるとちりあらんや櫻

○ 葉中

○ 八二

私乃意瓜^{コロ}所^ツ行^ル於識者^{ニキニヤ}了^ク
明^{アキ}也^ニ

漢和初心抄上終

方朔滑稽藜藿俳
詔听嗟其揆一者
哉生諸簡端以高
此集之紙價

河東書廬圖跋

享保十五歲 庚戌九月日

烏丸通松原下町

皇都書肆

松井蓬萊軒

梓壽

